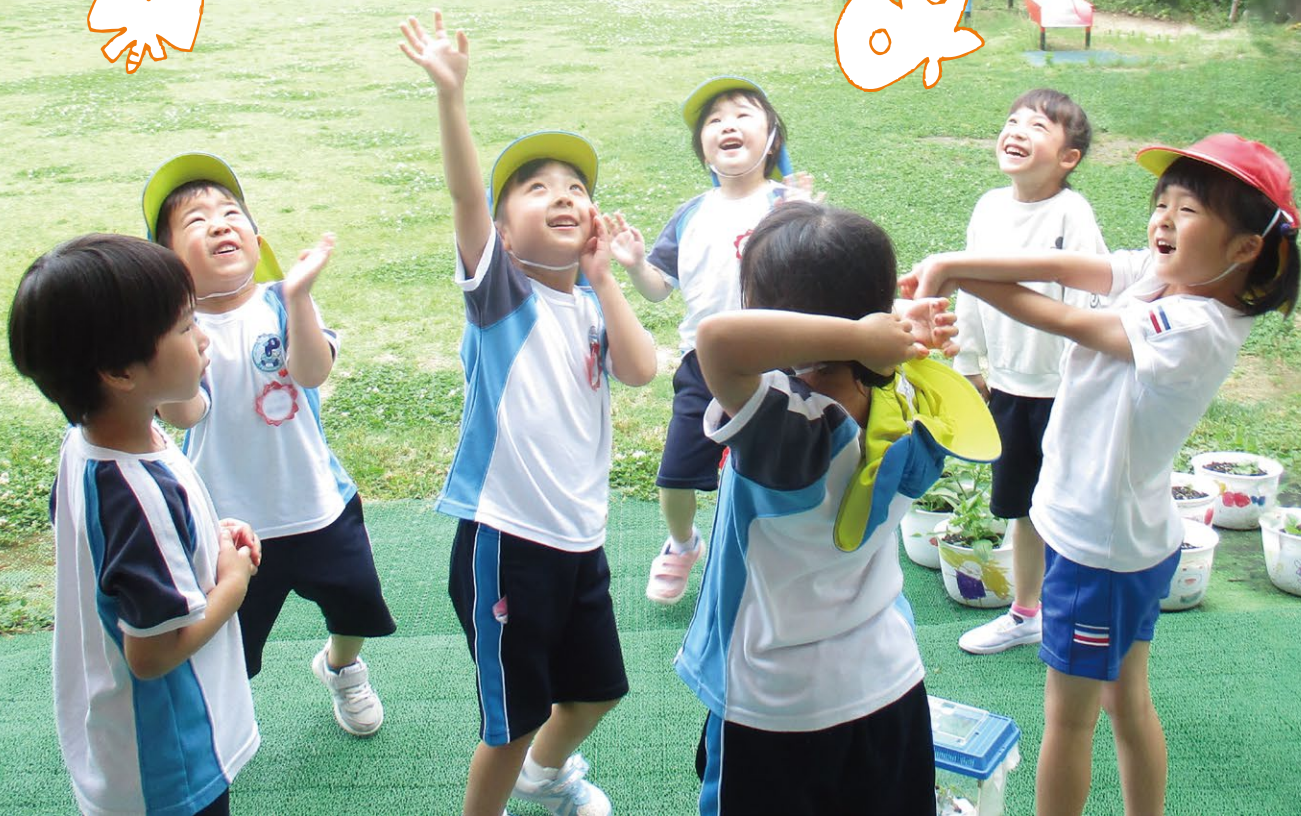


# 「やってみたい」を 支える保育

令和7年度

研究  
リーフレット





## はじめに

今年度も鳥取大学附属幼稚園には、子どもたち自らが選んだ遊びを“夢中になって遊びきる”子どもたちの姿があふれていました。

段ボールや廃材からユニークなみたく・つもりの世界を豊かに広げて遊ぶ3歳児。「いろんな所に行きます！」と宣言して、作った段ボール列車に乗って園中を巡っています。虫が大好きな4歳児は、園庭で見つけたいろいろな虫のお世話をしながら、新たな発見、変化への気づきに心躍らせる毎日です。園中のみんなを楽しませようと大きなお化け屋敷やトンネルを作り上げる5歳児。みんなで力を合わせるからこそできるダイナミックな遊びは、自分たちでやり遂げた満足感にあふれています。異年齢が交じり合う遊びは、年長児への憧れの気持ちや、子ども同士の教え合いを通して、学年を超えて広がっていきました。こうして、“みんなといっしょに遊ぶのって楽しいな”という満ち足りた思いが、子どもたちのところに大切な記憶としてため込まれ、さらに楽しい未来への期待へとつながっていくのでしょうか。

本園では、子どもたちの“やってみたい”という思いを引き出し、“夢中になって遊びきる”保育の実現を目指して、全教職員が園のすべての子どもたちの発達を支援する態勢で日々取り組んでまいりました。私たちが探究してきた保育の研究成果を、本リーフレットにまとめています。お読みくださった皆さまにとって、明日からの保育の一助となりましたら幸いです。

園長 寺川 志奈子

## 本園の保育について

本園は、幼児期の子どもにとって「遊びは学びである」という考えのもと、子どもが自ら遊びを見つけ、試行錯誤しながら主体的・協同的に遊びを深め、多様な体験を重ねていくことを保育の中心に据えています。人やモノ、コトとの関わりのなかで、心が動くさまざまな体験を通して遊びはより充実し、好奇心や探究心、気づきや工夫などをはじめとする多くの学びが生まれると考えています。



# 令和7年度 研究テーマ 「 やってみたい 」 を支える保育

## 今年度の取組

昨年度まで取り組んできたフォトトークを、ミニフォトトークという形でも行うことにし、保育者同士のカンファレンスの機会を増やしました。子どもたちが今取り組んでいる遊びや、興味関心を共有することで、保育者一人一人が幼児理解を深め、より適切なタイミングで援助できるようになりました。また、非常勤職員も含めて話し合う場を定期的にもつことで、次の日からの保育の充実に生かしていくことができました。話し合った内容や実践は、フォトエピソード記録にまとめ、職員間で共有し、子どもの「やってみたい」という思いが、どのように遊びへと繋がり、発展していったのか、思考の流れを丁寧に追いながら、保育者の援助や環境構成の工夫も含めて記録、考察しました。また、子どもたちの「やってみたい」を支える体づくりをねらいとして、令和5年度から実施している運動能力検査を本年度も実施しました。結果を分析することで、さらに多面的な視点で保育に生かしたり振り返ったりすることができました。

## 研究の目的

保育者同士のカンファレンス等を通して幼児理解を深め、「やってみたい」という気持ちを起点とする遊びの展開を意識した援助や環境構成のあり方を探る。

## 研究の方法

- 遊びの場面の事例を持ち寄り、保育者の保育の意図や環境の構成、援助について話し合う。(フォトトーク・ミニフォトトーク)
- 子どもの思考の流れを大切に、実践や評価をまとめた記録を作成し、保育者で内容を共有する。(フォトエピソード記録)
- 運動能力検査の実施、分析、活用をする。
- 担任交換の取り組みを引き続き行い、子どもの実態把握、発達段階の理解など、保育者同士での学び合いの機会にし、自己研鑽につなげる。
- 月の指導計画の実践後、評価を持ち寄り、反映しながら教育課程をアップデートする。



## といに流して遊びたい!

3歳児 4月中旬~7月

### ねらい

保育者や友だちのしていることに興味をもって遊んだり、自分のしたいことを見つけたりして楽しんで取り組む。【健康 (1)④】

### 主な遊びの流れ

入園2週間ほどが経ち、自分の保育室の外にも出かけていって遊ぶ姿が頻繁に見られるようになった。5歳児がといを繋げて遊んでいる様子に興味をもち、水に砂や葉を流す面白さを経験した。すると、「またあの遊びがしたい」という思いから、5歳児がしていなくても、自分でといを運んできて再現しようとし始めた。繰り返し遊ぶうち、それぞれの面白さを見つけながら発展していった。

## <4月中旬>

### 子どもの思い・願い

昨日の遊びをまたしたい

これを使ってやりたい

そらさん  
これ使ってたはず



こうやって  
くっつけて……



### 保育者の援助

安心感をもって遊ぶことができるように見守ったり手伝ったりしながら、やりたいことにどんどんチャレンジできるようにする。

### 子どもの姿

「流したい」「これを使ってやりたい」と自分で道具を取りに行き、5歳児の遊びを再現しようとする。【自立心、健康な心と体】

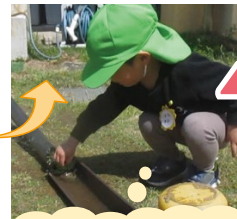
そらさん、昨日どうやって繋げたの?

ほしさんはこうやってしたいんだけど、うまくいかないんだ



保育者も遊びながら一緒に5歳児に頼り、異年齢との関わりのモデルになる。

砂を流してみよう



これを使うといいよ

子どもたちの感じている面白さを見取り、言葉で表現したり一緒に喜んでくれる。

もう一回!

トンネルの中から出てきた!楽しい!

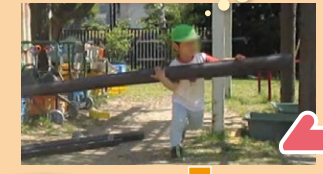
## <5月>

私もやる!もっとやる!

ケーキも  
流したいな



ここにつなげたい



もっともっと  
長くしたい

高いのがある!

友だちのしている動きや遊び方を真似したり、友だちの様子に興味をもって挑戦したりする。【健康な心と体】

動いた!  
もっともっと  
しよう



全てのといに水が流なくても再現できたことに満足し、それぞれに流したい物(砂、おもちゃ、草)や繋げたい物を見つけ、流れていく様子を面白がって繰り返し遊んでいる。【思考力の芽生え】

楽しんでいる気持ちに共感して受け止めたり、思いを代弁したりする。また、他の友だちのしていることにも目を向けられるように言葉をかける。

こうしたいんだけど……

子どもたちなりに「こうしたい」と思いをもって取り組む時間を大切に、試行錯誤の様子を見守る。

手伝おうか?

高くしたらいいんじゃない?



これにする?

ジョウロに  
入れたい……

繰り返し遊ぶ中で、高さを出せばいいことや、重ねる順番を変えることでスムーズに流れることなどを知り、言葉にし始める。【思考力の芽生え】

そこ持っという



いいね。重ねよう

〈5月～7月〉



もっとこうしようよ



ここが漏れてるよ



こぼれた水はここでキャッチしよう

友だち同士で、ここ出てるよ、こうすればいいんじゃない？などやりとりをしたり、やってみようという思いを共有したりする。【協同性】【言葉による伝え合い】

流すよー

穴から入れてみよう



安心して遊べる場を設定するとともに、友だちと一緒にやりとりをする姿を大切に、見守る。

もっとちょうだい

繰り返し遊びながら変化をつけ、それぞれにもっと面白いことを見つけ楽しむ。【思考力の芽生え】



ヤマモモなど、流して遊べる素材を紹介する。また、みんなで遊べる量を確認し、手の届くところに置く。

(ヤマモモが) 回ってる!

もう一回やりたいもっと欲しい

### 考察

異年齢の様々な遊びを目にすることが増えてきたことで、真似をしたり自分たちなりの面白さを見つたりしながら、チャレンジする姿が広がっていった。保育者は、子どもたちが面白さを感じていることに共感しつつ、周りの5歳児や友だちとのつながりを作ることを意識して関わった。また、遊びたいと思ったときに、すぐに自分たちで取りに行ける場所とことやコンテナなどの道具置き場があったことで、5歳児が取ってくる様子を見て自然に真似をし、遊び始める様子に繋がった。はじめのうちは、流れること自体が面白く、なんとなく再現できたことに満足していた。それぞれに、流すものを変えて遊ぶ子ども、流れる様子を楽しむ子ども、繋げることを楽しむ子どもなど、面白さを感じるポイントは異なっていたが、使いたい道具を持ち寄って一つの場を構築する様子が見られた。3歳児が遊んでいると、5歳児が様子を見に来たりサポートをしに来たりすることも多く、そのたび「できた」という思いや5歳児への憧れが積み重なったことで、長期間繰り返し取り組む遊びになったのではないかと考える。そのうちに、「つなげたい」「ここに入るようにしたい」などの思いが生まれる子どももあり、自分なりに試行錯誤を重ねたり、近くにいる友だちや5歳児に手を借りたり、会話をしたりする姿が見られるようになった。また、うまくいかなくても、それ自体を楽しんだり、偶然から生まれた面白さを喜んだりする姿が見られた。

### 【評価】といに流して遊びたい！（3歳児 4月中旬～7月）

遊びの中で見られた子どもの姿	環境の構成	保育者の思いと援助	今後に向けて
<p>5歳児の遊びに興味をもち、やってみたいことをどんどん思いつき、楽しみながら試した。</p> <p>・「5歳児みたいに繋げてみたい」と、自分たちでといやバケツを運んできて活動を始めた。</p> <p>・草や砂、砂場のおもちゃなど、流してみたいものを思い思いに取ってきて遊んだ。</p> <p>・水に流れる様子や、筒状のといから出てくる様子を楽しんで繰り返し遊んだ。</p> <p>・高さを出すためのコンテナなど、使えそうなものを考えて持ち寄った。</p>	<p>・道具を持ち寄り、遊ぶための場所や周囲の安全を確保する。</p> <p>・3歳児の保育室から水道、とい置き場が近かったことで、「やってみよう」と思ったタイミングですぐに遊びに入ることができた。</p> <p>・それぞれが「したい」と思ったときに好きな道具を選んで使える量のといを準備した。</p>	<p>・楽しみながら心と体を十分に動かすことができるよう、子どもの感じている面白さを見取って一緒に楽しんだり、発想や興味を大切にしながら関わったりする。</p> <p>・自分たちで遊びを始めたり、やってみようことに取り組んだりする様子を認める声かけをし、安心感をもって遊ぶことができる雰囲気作りをする。</p>	<p>・天候や気温により、早めの声かけをするなど、体調管理に気を配るようにする。</p>
<p>繰り返し遊ぶうち、それぞれに面白さや気付きを楽しんだ。また、周囲とのやりとりが増えていき、さらに「やってみよう」と様々な活動に取り組む姿に繋がった。</p> <p>・「これを流してみたい」「ここまで流してみたい」などの思いが生まれていった。</p> <p>・5歳児に手伝ってもらおうと、といの組み方や高さの出し方などを知り、試行錯誤を楽しみながら遊んだ。</p> <p>・4月初と比べ、クラスの友だちとの関わりが深まっていき、簡単なやりとりをしながら遊んだり、楽しそうな遊び方に加わったりする姿が見られた。</p>	<p>・子どもたちが満足するまで試行錯誤できるような、十分な時間を確保する。</p> <p>・思いっきり遊ぶことができるよう、十分な数の着替えを家庭にお願いする。</p> <p>・3歳児が試行錯誤していると、5歳児が様子を見に来たり一緒に手伝ったりした。</p>	<p>・子どもたちが思いをもって工夫する時間を大切にし、試行錯誤する姿を見守る。</p> <p>・保育者も遊びながら一緒に5歳児に頼り、異年齢との関わりモデルになる。</p> <p>・楽しんでいる気持ちに共感したり、思いを代弁したりする。また、友だちのしていることにも目を向けられるよう、言葉をかける。</p>	<p>・ヤマモモなど、使っている素材はいつでも手に取れるように、目に入る場所に置いておく。</p>



# フォトトーク

## 「やってみたい」に繋がった援助・環境を分析！

令和7年度のフォトトークでは、普段の遊びの中で、子どもたちの「やってみたい」という心の動きが特に表れていた場面について、各担任が写真を選んで持ち寄りました。可能な限り職員全員が参加し、みんなで語り合いながらより多面的に分析することで、次の保育につなげました。

### 子どもの姿や友だちとの関わりはどうだった？

友だちを意識して「負けないぞ」とがんばったり、応援したりする姿がありました

印をつけたり、上から見た景色を伝え合ったりすることでさらに意欲が高まるかもしれませんね

運動能力検査の分析で参考にした「幼児期に経験する基本的な動きの例」に印をつけ、子どもの実態を把握する視点の一つにしてみました。

### 木にのぼりたい！

#### 子どもの姿や友だちとの関わり

#### 「やってみたい」に繋がった援助・環境

### 「やってみたい」に繋がった援助・環境は？

安全に配慮しつつも、子どもたちの思いを受け止めて見守っていました

交流で一緒に遊んだ中学生が、子どもたちにとってよいモデルになりました

木登りにも様々な動きが含まれていますね

## フォトトークを通して…



子どもたちの実態や、担任の思いを職員みんなで共有したり、子どもたちの興味・関心に応じた援助を出し合ったりすることで、より多面的に子どもたちの見取りを行い、幼児理解が深まります。



明日からの保育を頑張ろう！  
やってみよう！

「やってみたい」を支える  
援助がさらに充実



## まとめ

令和7年度は『『やってみよう』を支える保育』をテーマに、研究に取り組んできました。フォトトークやカンファレンスを通して保育者同士が語り合うことで、子どもの姿をより多面的に見取るようになり、幼児理解が深まっています。また、運動能力検査の分析を生かすことで、「幼児期に経験する基本的な動き」を意識した保育へとつながってきています。話し合ったアイデアや援助の工夫を生かしながら実践を積み重ねることで、子どもたちが普段の遊びを楽しむなかで様々な動きを経験できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

研究を重ねる中で、「～したい」と自分の思いを言葉にし、遊びを継続して楽しむ姿が増えてきました。4歳児の木登り遊びでは、中学生の姿を見て興味をもち、「やってみよう」という気持ちから、友だち同士で競い合ったり応援し合ったりしながら遊ぶ姿が見られました。また、4・5歳児が鉄棒や太鼓橋で遊ぶ様子を見て、3歳児が「自分たちもやってみよう」と次々に挑戦する姿もありました。真似をしたい動きを見せてくれる友だち、保育者など人的環境の中で、「できるところを見せたい」、「できたところを見て欲しい」と繰り返し遊び込むうちに、「自分はまだできるはず」、「もっとうまくなりたい」とさらに意欲が広がっていきました。このように、子どもたちが様々な動きを経験していくことが、小学校以降の育ちにも繋がっていきます。遊びの分析から、遊びの中には、様々な動きが複合的に含まれていることがわかりました。保育者自身もそのことを意識しながら、今後は、さらに「やってみよう」を支えていくために、どのような援助や環境設定が必要なのかを模索するとともに、実践や評価を通して得た気づきを月の指導計画に反映し、来年度へと引き継いでいきたいと考えています。遊びは学びそのものです。職員全員で語り合う場を大切にしながら、子どもたちが豊かな経験を積み重ねる保育を実践していきたいと思ひます。



## おわりに

今年度は、これまでの研究の取り組みを振り返り、再度保育の基本に立ち戻り、『『やってみよう』を支える保育』をテーマに研究がスタートしました。研究にあたっては、運動能力検査の実施と分析から、幼児期に経験する基本的な動きと遊びとのつながりについて考察し、保育に生かしていきました。研究を進めていくにつれ、多様な動きを取り入れた遊びを工夫するなど、職員の遊びの見方・考え方に広がりが見られるようになりました。あわせて子どもたちの遊びにも広がりが見られるようになっていきました。

「○○ちゃんみたいにやってみよう」「もっと○○したい」と子どもたちは自分の「やってみよう」遊びを展開していきます。その時にどの職員でも援助できるように、日常的に行っている職員同士の対話を大切にしています。全職員で子どもたちの育ちを共有し関わっていくことは、時間の確保や勤務体制など難しい面も多々ありますが、子どもたちの「やってみよう」がこちらこちらで見られ、さらなる「やってみよう」につながっていくためにも、子どもたちを中心に据えて語り合える職員集団であり続けたいと思ひます。

ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

副園長 谷口 千春

令和8年2月発行 〈発行者〉国立大学法人 鳥取大学附属幼稚園

〒680-0941 鳥取県鳥取市湖山町北2丁目465番地 TEL:0857(28)0010 / FAX:0857(31)3321